

1. 件 名 : OECD/NEACSNI WGIAGE の高経年化に関する新規活動等に係る意見交換その2

2. 日 時 : 令和5年6月29日(木)18時00分~20時00分

3. 場 所 : 原子力規制庁 16階 A会議室

4. 出席者 :

原子力規制庁

長官官房技術基盤グループシステム安全研究部門

小嶋上席技術研究調査官

皆川副主任技術研究調査官

経済協力開発機構/原子力機関 : 1名

MHI NS エンジニアリング株式会社 : 1名

5. 要旨

経済協力開発機構/原子力機関（以下「OECD/NEA」という。）原子力施設安全委員会（以下「CSNI」という。）傘下の機器・構造物の健全性及び経年劣化に係るワーキンググループ（以下「WGIAGE」という。）では、①2023年から2025年に原子力発電所の長期運転（以下「LTO」という。）に係るステータスレポートを作成する活動を計画しているとともに、②LTOに資する新規研究活動の検討を開始している。今回の面談では、はじめに、OECD/NEAから、①②の活動で対象となる金属材料、コンクリート構造物、電気・計装設備のうち、特にコンクリート構造物及び電気・計装設備に関する状況について説明を受けるとともに、MHI NS エンジニアリングからは今後上記活動でWGIAGEと連携していくことが想定されるCSNI傘下の電気システムに関するワーキンググループにおける議論の状況について説明を受けた。次に、原子力規制庁より、運転期間延長認可申請の審査、高経年化した発電用原子炉の安全規制の検討及び原子力発電所で使用された機器等（以下「実機材料」という。）を用いた安全研究の状況に基づき、コンクリート構造物については、事業者より、運転期間延長審査の特別点検において採取したコンクリートコアを用いた試験データが示されていること、また、電気・計装設備については、安全研究において、ケーブル等の主要な機器の実機材料を用いて試験データ取得を進めていること等を説明した。

6. その他

資料 : なし